

第 27 回静岡県作業療法士学会特別企画 気ままにママランチ

広報誌 114 号でご紹介させていただきました、第 27 回静岡県作業療法士学会、特別企画「気ままにママランチ」の意見交換会の内容を以下にご紹介致します。

1. 参加者の状況

人数：16 名（女性 15 名 男性 1 名）



2. 意見交換内容（一部を抜粋）

◎和やかに雰囲気の中で、活発な意見交換がなされました。

(1) 学会や勉強会に参加するコツ

- ・子供と一緒にいけるように、託児所などを利用する。
- ・平日に勉強会を主催してほしい。平日に保育園があり預ける事が可能であるから。
- ・子供に分かってもらえるように説明する
- ・旦那様の協力がある時に参加。
- ・仮に子供を預けて時間が出来たとしても、参加頻度の向上には限界がある。
- ・多くの育児中の会員は、勤務している日は子供と過ごす時間が短いということを気にして働いており「休日ぐらい、子供のことをしてあげたい」という気持ちが強い。

(2) 日頃の悩み

- ・仕事と家事の両立が出来ない
- ・職場に理解してもらえないまでに時間がかかった(育休・時短)
(例)急な休みになっても協力してもらえる職場環境が必要
- ・仕事復帰にあたり、「夫の協力がどれくらい得られるか？」が心配。

(3) OTになって良かった事

- ・おもちゃがなくなった時「ないなら作ればいい」と子供から発言があった。
- ・他の職種に比べて仕事の大変さを子供が理解しやすく納得してくれる

(例)

子供に遅れることを伝えると「患者様が病気のせいだからしょうがない」と思ってもらえる。

実習生の緊急の電話「忙しいからしょうがない」と納得してくれる。

(4) 出産前後で困っている事

- ・勉強会に行きにくくなった
- ・勉強会に行く事を諦めている
- ・今回の学会が7~8年ぶり 子供の事を優先させたい
- ・後輩・実習生の指導が勉強会に行けないことで不十分になってしまう
- ・実家が遠く預けることが出来ない

(5) 時短での働き方

- ・子供が3歳になるまで利用(フルタイム勤務より1時間30分時間を短縮して勤務)
- ・元々先輩が利用しており自分も利用した
4時間勤務・5時間勤務・6時間勤務を選択でき、6時間勤務を利用していた(小学3年まで)
- ・時短を利用していても後輩指導・学生指導があり、帰る時間は通常通りとなってしまう。
- ・家族に頼りたい。
- ・時間で区切って働くことが難しい。

(6) フルタイムでの働きかた

- ・仕事をこなす
- ・夫の協力を得る
- ・学童・同じマンションの親に預ける
- ・割り切る必要がある(人に預ける)
- ・土日に子供を連れて業務を行う
- ・夕食の支度は朝行う
- ・義理母が協力的である。



(7)子どもが小学校以上の場合

小1の壁・・・小学生に上がると子供が保育園に通っていた時よりも早く帰ってきてしまう。小学校に上がる前に仕事を止めてしまう方が多い。

- ・家から親を呼んでいた
- ・近所の人協力
- ・小学校に上がる前に親と同居をした
- ・夏休みは子供たちでのやり取り
- ・入学してから1週間は職場の協力を得て早めにかえっていた。
- ・学童・塾・友人に預ける
- ・学童に預けると夕飯を食べずに寝てしまう

(8)県士会・学会への要望

- ・子供と一緒にいける勉強会を作ってほしい
- ・子供が連れていけない状況なら、平日に勉強会を主催してほしい
- ・「子どもと一緒に参加できる催し」。例としては学会レセプションや会員間での交流イベント、フリートークの行えるイベントなどがニーズが高い。
- ・バーベキューなど会員間の交流も、「子連れで行きたい」という声が聞かれた。

